

二十世紀の中国書法

河内 利治（君平）

【解説】本稿は、二〇〇〇年九月九日（土）に開催された「第三十一回大東文化大学書道講習会（漢字コース）」において、河内が講演した「二十世紀の中国書法」PPT版（マイクロソフトパワーポイント）である。講演では、残念ながらこのPPT版を用いてスライドショーを実行できなかったため、誌上公開しておきたい。講演当日は、プロジェクターが使用できず、マイクロソフト社のワードに変更してレジュメを配布し、あわせて数点の作品をスクリーンに投影する形で行った。本稿では紙面の都合上、その作品を割愛せざるを得ない。その点をご了承願いたい。昨今、PPT版を用いたプレゼンテーション授業が、各大学各分野で行われている。折しも、八月二十九日、三〇日、三十一日の三日間、慶応大学日吉キャンパスで開催された、社団法人私立大学情報教育協会・知的資源開発促進委員会主催「平成十二年度授業情報技術講習会」に参加し、HTMLの作成ならびにPPTによるプレゼンテーションの講習を受講した。そこでの講習をもとに作成したのが、このPPT版「二十世紀の中国書法」である。何分初めての経験であり拙作であるが、今後本学の授業の中にも組み入れていきたいと考えている。内容については、中国書法家協会主編《中国書法》一九九九年第十二期に付録として折り込まれた《二十世紀中国書法大事期》をベースに組みなおし加筆したものである。なお本文の全訳は、今井凌雪主幹『新書鑑』二〇〇〇年三月号（前編）ならびに五月号（後編）を参照されたい。

2

1

20世紀の中国書法

目次

- ❖ プロローグ
- ❖ 第1話—書法関連の歴史的事項
- ❖ 第2話—考古学上の新発見・出土
- ❖ 第3話—代表的書法関連著作
- ❖ 第4話—代表中国書法家
- ❖ 第5話—日中書法交流の歴史と現状
- ❖ エピローグ：中国書法の未来

大東文化大学書道講習会

講演 20世紀の中国書法

河内 君平（文学部書道学科助教授）

2000. 9. 9（土）

書法関連の歴史的事項1

- ❖ 1899 王懿榮らが北京で甲骨文を発見
- ❖ 1904 「西泠印社」成立
- ❖ 1905 張書が江蘇南通に中国初の博物館「通州博物苑」を創建
- ❖ 1906 両江優級師範学堂に国画手工科が設置され、李瑞清が書法を教授
- ❖ 1909 「上海豫園書画善会」成立
- ❖ 1913 「上海書画協会」成立・吳昌碩会長就任
- ❖ 1917 「北京大学書法研究」社成立

プロローグ

- ❖ 視点：20世紀の中国書法の発展は、従前に比してその差が大きく、変化が速く、中国書法数千年の歴史の中で稀有である。
- ❖ 目的：20世紀の中国書法をよりよく回顧し総括することは、現代書法の発展を促進させ、多くの書法愛好家の生活を活発で豊かなものにするためである。

書法関連の歴史的事項3

- ❖ 1949 「中華全国文学芸術界連合会」成立・郭沫若「中華全国美術工作者協会」成立・徐悲鴻
- ❖ 1953 「中国美術家協会」成立・齊白石主席
- ❖ 1956 「北京書法研究社」成立・陳雲誥社長
- ❖ 1957 毛沢東「百花齊放・百家争鳴」の方針
- ❖ 1958 周恩来の政治協商会議報告「書法は芸術の一種であり、当然ながら漢字簡化の制限を受けずともよい。」
- ❖ 1961 「上海中国書法篆刻研究会」成立・沈尹默
- ❖ 1962 台湾「中国書法学会」成立・王壮為

書法関連の歴史的事項2

- ❖ 1918 蔡元培が中国初の国立美術学校開幕式で講演し、書法専科増設をアピール
- ❖ 1919 五四運動
- ❖ 1921 日本人が《漢三老諱字忌日記》を大金で買おうとしたが、姚星・沈宝昌・丁輔之等が寄付を募り、8000金で購入、石は西泠印社に現存。
- ❖ 1932 于右任「標準草書社」上海で成立
- ❖ 1937 張伯駒が《平復帖》を購入
- ❖ 1942 毛沢東「延安文芸座談会講話」

書法関連の歴史的事項5

- ❖ 1977 「北京書学研究会」成立・趙模初
- ❖ 1979 浙江美術学院が中国初の書法篆刻専業の大学院生を募集、陸維釗・沙孟海・諸樂三が指導にあたる
- ❖ 1980 「全国第1回書法篆刻展」開催
- ❖ 1981 「中国書法家協会」成立・舒同主席
- ❖ 1983 王羲之《蘭亭序》1630周年記念大会
- ❖ 1987 日中蘭亭書会
～ 国内外で研討会・展覧会が多数開催
- ❖ 1998 フランス「パリ中国現代書法大展」

書法関連の歴史的事項4

- ❖ 1963 浙江美術学院書法篆刻専業の学生募集、陸維釗が書法科主任となる
- ❖ 1965 『文物』第6期に郭沫若が「王謝墓誌の出土から《蘭亭序》の真偽を論ず」を発表し、「蘭亭論辨」が始まる
- ❖ 1966 「文化大革命」始まる（～76）
「部隊文芸工作座談会紀要」に「黒線專政」論が包括され、文芸工作者は大きな災難を被る
- ❖ 1974 毛沢東が大平正芳首相に《懷素自叙帖真跡》影印本を寄贈

考古学上の新発見・出土2

- ❖ 1922 河南・漢《袁敞碑》出土
魏《三体石經殘石》出土
- ❖ 1927 内蒙古エチナ河「居延筆」出土
- ❖ 1928 考古学史上初の殷墟の大規模な科学的発掘
- ❖ 1929 河南・漢《袁安碑》出土
- ❖ 1930 内蒙古エチナ河「漢簡」1万枚出土
- ❖ 1936 殷墟《甲骨文字》17000片出土
- ❖ 1939 河南・殷墓《司母戊鼎》出土
- ❖ 1942 湖南長沙・楚墓《戦国楚帛書》盗掘出土

考古学上の新発見・出土1

- ❖ 1899 甲骨文字の発見
- ❖ 1900 ヘ Dein・楼蘭《西晋木簡・残紙》発見
- ❖ 1900 敦煌《温泉銘》《化度寺碑》出土
- ❖ 1901 スタイン・楼蘭《漢晋木簡・残紙》発見
- ❖ 1907 スタイン・敦煌《漢簡・古文書》発見
- ❖ 1908 橋瑞超・楼蘭《東晋・李伯文書》発見
- ❖ 1911 陝西・漢《朝侯小子殘碑》出土
- ❖ 1917 河南・西晋《荀岳墓誌》
北魏《元顯簡墓誌》出土
- ❖ 1918 陝西・東晋《広武將軍碑》出土

考古学上の新発見・出土4

- ❖ 1964 新疆《晋写本三国志残卷》発見
- ❖ 1966 山西・戦国《侯馬盟書》出土
- ❖ 1969 新疆《唐写本論語鄭氏注》発見
- ❖ 1971 《甘谷漢簡》出土
- ❖ 1972 山東臨沂《銀雀山漢簡》・《武威漢簡》出土
天津武清・漢《鮮于璜碑》出土
- ❖ 1973 湖南長沙《馬王堆漢墓帛書簡策》出土
湖北江陵鳳凰山《漢簡》出土
河南安陽小屯村《甲骨》5000余枚発見

考古学上の新発見・出土3

- ❖ 1948 《敦煌漢簡》40枚発掘
- ❖ 1950 中国科学院考古研究所が安陽殷墟の科学的発掘を開始
- ❖ 1954 湖南長沙左家山「戦国楚筆」出土
- ❖ 1957 甘肅・漢《武威儀礼簡》出土
陝西・前漢「灑橋紙」出土
- ❖ 1959 甘肅・漢墓《武威王丈簡詔令冊》出土
- ❖ 1964 洛陽・後漢《刑徒墓磚》800通出土

考古学上の新発見・出土6

- ❖ 1991 《甲骨》史上第3次大発見—579片
- ❖ 1992 河南・唐張旭《巖仁墓誌》出土
- ❖ 1995 山東東平洪頂山《北齐仏教摩崖刻經》発見
- ❖ 1996 湖南長沙走馬楼《簡牘》10万枚出土
- ❖ 1999 河南偃師・顔真卿《郭虛己墓誌銘》出土

考古学上の新発見・出土5

- ❖ 1975 湖北《睡虎地秦簡》出土
- ❖ 1976 陝西扶風県・西周《墙盤》出土
- ❖ 1977 陝西岐山鳳雛村《周原甲骨》出土
安徽《阜陽漢簡》出土
- ❖ 1980 大興安嶺・北魏《鮮卑石室摩崖祝文》発見
- ❖ 1983 吉林・蘇軾《洞庭春色賦・中山松醪賦》巻発見
- ❖ 1985 河北《後漢朱書磚》発見
- ❖ 1986 陝西秦考1号墓《秦公大墓石罍文字》出土

木簡の発掘

❖ 今世紀初め、イギリスのスタインが新疆省ニヤ遺跡で晋簡50枚を発掘した。少し遅れてスウェーデンのヘディンが楼蘭で晋簡残紙を発掘。その後も、スタイン、ヘディンの発掘が続き、日本の大谷探検隊も踏査、有名な《李伯文書》を発掘した。1930年からは、ヘディンを団長とする西北科学考察団が、居延より多くの漢簡を発掘した。また、1951年より湖南省・湖北省の戦国時代の楚墓より帛書竹簡、秦墓より竹簡などが発見された。近年さらに居延などから多くの漢簡の発掘が続いている。

甲骨文字の発見

❖ 光緒29年(1899)、王懿榮・劉鶚らによって、当時解熱剤として出まわっていた「龍骨」が、実は甲骨文字の遺品であることが判明した。それがきっかけとなって、1903年甲骨文字の拓本を取めた『鉄雲蔵龜』(劉鶚)が刊行された。その後、孫詒讓・羅振玉・王国維・董作賓らによって研究が深められる。甲骨文字は、河南省安陽小屯より多数出土し、今までに約10万片が出土。文字資料として4700字余りあり、そのうち解読字数は2000字弱である。

代表的書法関連著作2

- ❖ 1919 張宗祥『書学源流論』刊行
- ❖ 1920 王襄『墓室殷契類集』刊行一初の甲骨字典
- ❖ 1921 王国維『觀堂集林』脱稿
- ❖ 1925 容庚『金文編』出版
- ❖ 1929 『胡宮周刊』創刊
- ❖ 1933 董作賓『甲骨文段断代研究例』発表
郭沫若『卜辞通纂』日本で出版
- ❖ 1934 孫海波『甲骨文編』出版
馬宗霍『書林彙編』完成

代表的書法関連著作1

- ❖ 1903 劉鶚『鉄雲蔵龜』最初の甲骨の著録
- ❖ 1906 繆荃孫『芸風堂金石文字目』完成
- ❖ 1907 震鈞『国朝書人輯略』完成
- ❖ 1909 葉昌燾『語石』刊行
- ❖ 1910 鄧实・黄寶虹『美術叢書』編纂開始
羅振玉『殷商貞卜文字考』出版
- ❖ 1911 楊守敬『学書選言』完成
- ❖ 1913 金梁『盛京胡宮書画録』完成
- ❖ 1914 羅振玉・王国維『流沙瑣簡』刊行

代表的書法関連著作4

- ❖ 1948 馬叔倫『石室餘瀟』出版
董作賓『殷墟文字』甲編
- ❖ 1949 唐蘭『中国文字学』開明書店出版
平衛『書法大成』中央書店出版
董作賓『殷墟文字』乙編上・中
- ❖ 1950 『文物參考資料』創刊
- ❖ 1956 陳夢家『殷墟卜辞綜述』出版
- ❖ 1958 『西泠印社志稿』刊行
- ❖ 1959 『文物參考資料』を『文物』に改名

代表的書法関連著作3

- ❖ 1935 馬宗霍『書林紀事』完成
容庚『金文統編』刊行
- ❖ 1937 羅振玉『三代吉金文存』影印出版
- ❖ 1938 蔣彝『中国書法』完成
- ❖ 1939 丁文簡『書法精論』出版
- ❖ 1940 傅抱石『中国篆刻史略述』完成
- ❖ 1941 『草書月刊』創刊
祝嘉『書学史』上海教育書店出版
- ❖ 1944 馬衡『談篆刻』発表
祝嘉『書学格言』重慶教育書店出版

代表的書法関連著作6

- ❖ 1980 容庚『叢帖目』中華書局香港分局出版
『現代書法論文選』上海書画出版社出版
- ❖ 1981 文物出版社『書法叢刊』創刊
- ❖ 1982 中国書法家協会編『中国書法』創刊
楊震方『碑帖叙録』上海古籍出版社
周汝昌『書芸芸術問答』文化芸術出版社刊
『甲骨文合集』13巻完成
- ❖ 1984 武漢『書法報』創刊
梁披雲『中国書法大辞典』香港書譜社刊
熊秉明『中国書法理論体系』商務印書館
香港分館出版

代表的書法関連著作5

- ❖ 1962 宗白華「中国書法中の美学思想」発表(『哲学研究』)
潘伯鷹『中国書法簡論』刊行
- ❖ 1963 朱建新『孫過庭書譜箋証』中華書局出版
沈尹黙『歴代名家学書経験談輯要釈義(1)』
教育出版社影印出版
- ❖ 1978 上海『書法』創刊・『甲骨文合集』編纂開始
- ❖ 1979 上海『書法研究』創刊・『歴代書法論文選』出版
劉綱紀『書法美学簡論』湖北人民出版社出版
台湾『印林』雑誌創刊

20世紀中国書法家人気投票ベスト10

- ❖ 第10位 15票 李叔同
 - ❖ 第9位 19票 齊白石
 - ❖ 第8位 22票 謝無量
 - ❖ 第7位 25票 沙孟海
 - ❖ 第5位 26票 毛沢東・沈尹黙
 - ❖ 第1位 35票 康有為・于右任・吳昌碩・林散之
- 『中国書法』1999年第12期より
専門家の選出による(満票39票)

代表的書法関連著作7

- ❖ 1986 『中国美術全集・書法篆刻編』全7巻刊行開始
- ❖ 1987 徐邦達『古書画過眼要録』湖南美術出版社
- ❖ 1989 『中国書法鑑賞大辞典』大地出版社
開封『書法導報』創刊
- ❖ 1991 『中国書法全集』全100巻刊行開始
- ❖ 1999 『甲骨文合集補編』出版
『甲骨文合釈文』出版

20世紀中国書法家紹介2

❖ 于右任(伯循・古愚)

1876~1964

陝西省三原の人

清光緒29(1903)年挙人1906年
日本に赴き同盟会に参加。帰
国後、「神州日報」「民立報」創
刊。孫文に従い、民主革命活
動に従事。国民党監察院院長
等を歴任し、台湾定住。標準草
書を創り影響力を持った。その
書は「于体」と称される。

❖ 沈尹黙(君黙)

1883~1971

浙江省湖州の人 若くして日本
留学 帰国後、北京大学教授
「五四運動」の「新青年」編集
委員 建国後、中央文史館副
館長、上海市文連副主席、上
海中国書法篆刻研究会主任。
「二王」を尊び、晋唐書家、漢碑
魏碑をあまねく学び、「帖学派」
の代表人物。著に『書法論叢』
『二王書法管窺』あり。

20世紀中国書法家紹介1

❖ 康有為(祖詒・南海)

1858~1927

広東省南海の人

清光緒21(1895)年進士
「戊戌変法」に失敗して
海外に亡命
「碑学派」の泰斗
著『広芸舟双輯』
行草書は氣宇壮大

❖ 吳昌碩(俊卿・缶廬)

1844~1927

浙江省安吉の人

清末諸生
俞曲園・楊見山に師事
西泠印社社長
篆書は《石鼓文》の臨書
隸書は《漢祀三公碑》
行草書は王鐸・米元章・
黃道周に倣う

20世紀中国書法家紹介4

❖ 齊白石(璜・寄萍老人)

1863~1957

湖南省湘潭の人

57歳で北京に住む。

篆書は周秦漢の精筆を汲み、「三公山碑」「天發神讖碑」に益を受ける。行草書に深く力を注ぎ、蒼勁豪邁であった。絵画、篆刻で一代の宗師となる。

中国美術家協会主席、北京中国國院名譽院長。

❖ 謝無量(兼・大澄)

1884~1964

四川省樂至の人

幼時より家訓を受け古文詩賦を学ぶ。1901年南洋公学に入學、民国初期、孫中山大本營秘書。建國後は、川西博物館館長、中央文史館副館長等を歴任。書は碑学と帖学を兼ね合わせ、蕭散稚拙で一家を成した。著『中国大文学史』『詩経研究』

20世紀中国書法家紹介3

❖ 李叔同(弘一法師)

1880~1942

浙江省平湖の人 天津生まれ 若くして詩詞・篆刻・書法を学び、造詣が深かった。1898年上海南洋公学入學、卒業後日本に赴き、帰国後芸術活動に従事、中国話劇の先駆となる。1918年出家し、律宗の高僧となる。書法は「張猛龍碑」に益を受けた。

❖ 毛沢東(潤之)

1893~1976

湖南省湘潭韶山の人

中国共産党中央委員会主席、中央軍事委員会主席、中華人民共和國主席等の要職を歴任 詩詞を好み、書法が巧みで、狂草を善くした。

『毛沢東題詞墨跡選』

『毛沢東詩詞手書』等がある。

ノミネート書家50人

康有為・于右任・吳昌碩・林散之・毛沢東・沈尹默
沙孟海・謝無量・齊白石・李叔同・沈曾植・張書
曾熙・黃賓虹・羅振玉・趙熙・李瑞清・王世鏗
梁啓超・趙叔孺・徐生翁・蕭退庵・魯迅・張宗祥
葉恭綽・馬一浮・呂鳳子・胡小石・喬大壯・郭沫若
劉孟伉・傅儒・徐悲鴻・王蘊常・謝稚柳・鄧散木
潘天壽・方介堪・潘伯鷹・蕭嫻・陸維釗・張大千
朱復戡・高二適・來楚生・費新我・白蕉・陸儼少
陶博吾・台靜農

20世紀中国書法家紹介5

❖ 沙孟海(文若・蘭沙)

1900~1992

浙江省鄞県の人

吳昌碩に師事、馮君木から古文辭を学ぶ。その書は漢魏に倣い、宋明に学ぶ。青年時すでに著名で、壮年後は一人ずば抜けて巨人となる。

浙江省博物館名譽館長

西泠印社社長

浙江美術学院教授

中国書法家協会副主席

❖ 林散之

1898~1989

安徽省和県の人

江蘇江浦の生まれ

若くして精密な人物画と書法を学ぶ。30歳以後黃賓虹に師事。書は唐の楷書を学び、後に漢魏を学ぶ。「乙瑛」「張猛龍」「張黑女」「嵩高靈廟」等の碑に益を受ける。晩年草書の創作に力を注ぎ、懷素の要訣を得て、草書をもって名声を博す。

日中書法交流の歴史

❖ 未国交時代(1957年~1971年)

❖ 日中国交正常化時代(1972年~1980年)

❖ 中国書法家協会成立後(1981年~現在)

現代の中国書法家

❖ 趙樸初(1907~1999)中国仏教協会会長・西泠印社社長

❖ 謝冰巖(1909~)中国書法家協会顧問

❖ 啓功(1914~)北京師範大学教授・中国書法家協会名誉主席

❖ 趙冷月(1915~)上海書法家協会副主席

❖ 王学仲(1925~)天津大学教授・中国書法家協会名誉顧問

❖ 劉江(1926~)浙江美術学院教授・西泠印社副社長

日中国交正常化時代(1972年～1980年)

- ❖ 1972 田中首相と周恩来総理によって日中国交正常化、自治体や書道団体独自の交流が開始
- ❖ 1973 中村梅吉団長ら訪中
- ❖ 1974 香川峯雲団長ら12名訪中
- ❖ 1975 村上三島団長ら16名訪中
- ❖ 1976 「書道の翼」が実現し、飯島春敬団長ら134名訪中
- ❖ 1977 梅舒適団長ら16名訪中
- ❖ 1978 金子鷗亭団長ら30名訪中
- ❖ 1979 梅舒適団長ら16名訪中
- ❖ 1980 飯島春敬団長ら7名訪中

未国交時代(1957年～1971年)

- ❖ 1957 東京日本橋で「中国書道展」開催
- ❖ 1958 豊道春海団長ら14名訪中
- ❖ 1960～61 北京と東京で「日中交換書道展」
- ❖ 1961 西川寧団長ら9名訪中
- ❖ 1962 山田正平団長ら5名訪中
- ❖ 1963 陶白団長ら6名訪日
- ❖ 1964 豊道春海(中国個展のため)ら4名訪中
- ❖ 1965 西川寧団長ら6名訪中
- ❖ 1966～71 文化大革命のため訪中・訪日なし

日中書法交流の現状

- ❖ 大規模な書法篆刻展
「中国20世紀書法大展」1999.7.8～17上野の森
「日中書法凱旋展」2000.8.31～9.5渋谷東急
- ❖ 本格的な学術交流—国際書法史論研究会
1 北京 '1994 2 沈陽'1996
3 マカオ'1998 4 東京'2000

中国書法家協会成立後(1981年～現在)

- ❖ 1981年5月9日
文学芸術連合会代表大会で書法への呼びかけが高まり、著名な舒同や朱丹らが中心となり、北京で成立。全日本書道連盟がその成立に協力し、代表団の往来、展覧会の相互開催、中国書道研究会の実施など交流が多彩となり、今日まで継続している。
- ❖ 書法篆刻展の開催
- ❖ 日本への訪問
中国書法家協会代表団
すでに11回実施
- ❖ 中国への訪問
1 中国書道研究訪中団
すでに16回実施
2 全日本書道連盟代表団
すでに11回実施

講演 20世紀の中国書法

Editor by Kunpei Kawachi
Microsoft PowerPoint

エピローグ: 中国書法の未来

- ❖ 文化修養と芸術創作
「書は人なり」or「芸術至上主義」
- ❖ 伝統と革新のバランス
1 伝統派の減退
2 現代派の台頭
- ❖ 次世代の育成
1 簡化字教育による古典離れ
2 西洋文化の影響